

子どもの命を守るため はしか撲滅に全力！ ゲリラ豪雨などからの水難事故を防止！

横浜市議員 かのう重雄

はしか(麻しん)とは

はしか(麻しん)は、子どもの命を奪う病気として広く恐れられてきました。その感染力は新型インフルエンザよりも強く、時に死に至ることもあります。現在でもはしかの有効な治療薬はありませんが、予防法は確立されており、ワクチ

ンの2回接種を行うことで感染を防ぐことができます。はしか対策(世界では)

世界のほとんどの国で、

はしかのワクチン2回接種が行われています。WHOでは、はしかの国内発生をほぼゼロ(人口100万人当たり1例未満のはしかの発生)に抑え込むことを「排除」と呼んでおり、南北ア

メリカ、欧米、韓国などで、すでに排除を達成しています。

はしか対策(日本では)

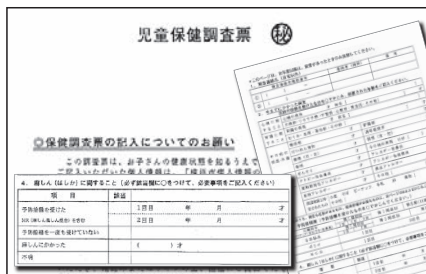
日本では、はしかのワクチン2回接種がきちんと行われてきませんでした。そのため毎年のようにはしかが流行し、日本は「はしか輸出国」と言われています。2007年の大流行を機



かのう 重雄

公明党横浜市議員団 瀬谷事務所
瀬谷区三ツ境 125-25 ☎365-2054 ㊚365-1690

に国は、2012年までの排除を目標としたキャンペーンを開始しました。ワクチンの2回接種の推進(満2歳未満、小学校就学前の2回)と、1回しかワクチンを受けてこなかった年代をターゲットに、5年間限



改善された保健調査票

このことを委員会等で指摘し、新聞でも大きく取り上げられました。

児童・生徒の保健調査票改善が実現

いまだ横浜市・神奈川県、ワクチン接種率は低く、神奈川県は、はしかの発生が日本で一番多いです。私

は子どもの命を守るため、

2007年の大流行時から今日まで、はしかワクチン接種率の把握と向上を、議会で指摘してきました。

今回の指摘で、2回接種徹底のため学校現場において児童・生徒の保健調査票の改善が実現しました。

はしか発生時の対応の不備を指摘

今年2月に瀬谷区内で、はしかの発生が7例もあり、横浜市のはしか排除は程遠いのが現状です。

私が行った調査の結果、区役所、横浜市保健所、市教育委員会、神奈川県などの連携対応の不備が判明。

警報器を設置

激しい雨が短時間で局地的に降る「ゲリラ豪雨」などによる水難事故防止のため、区内の和泉川、相沢川

の親水拠点に警報装置の設置を推進しました。また、県所管の境川についても年内設置を目指しています。

ポールに赤色灯とスピーカーが付いており、大雨注意報の発表で赤色灯が自動的に回転。大雨・洪水注意報で赤色灯と音声で避難を促します。

警報装置の設置場所は、和泉川沿いにある東山の水辺と二ツ橋の水辺、相沢川の相沢川ウォークと童橋です。境川には、中島橋と入村深谷橋周辺に年内早い時期に設置されます。



相沢川と警報装置